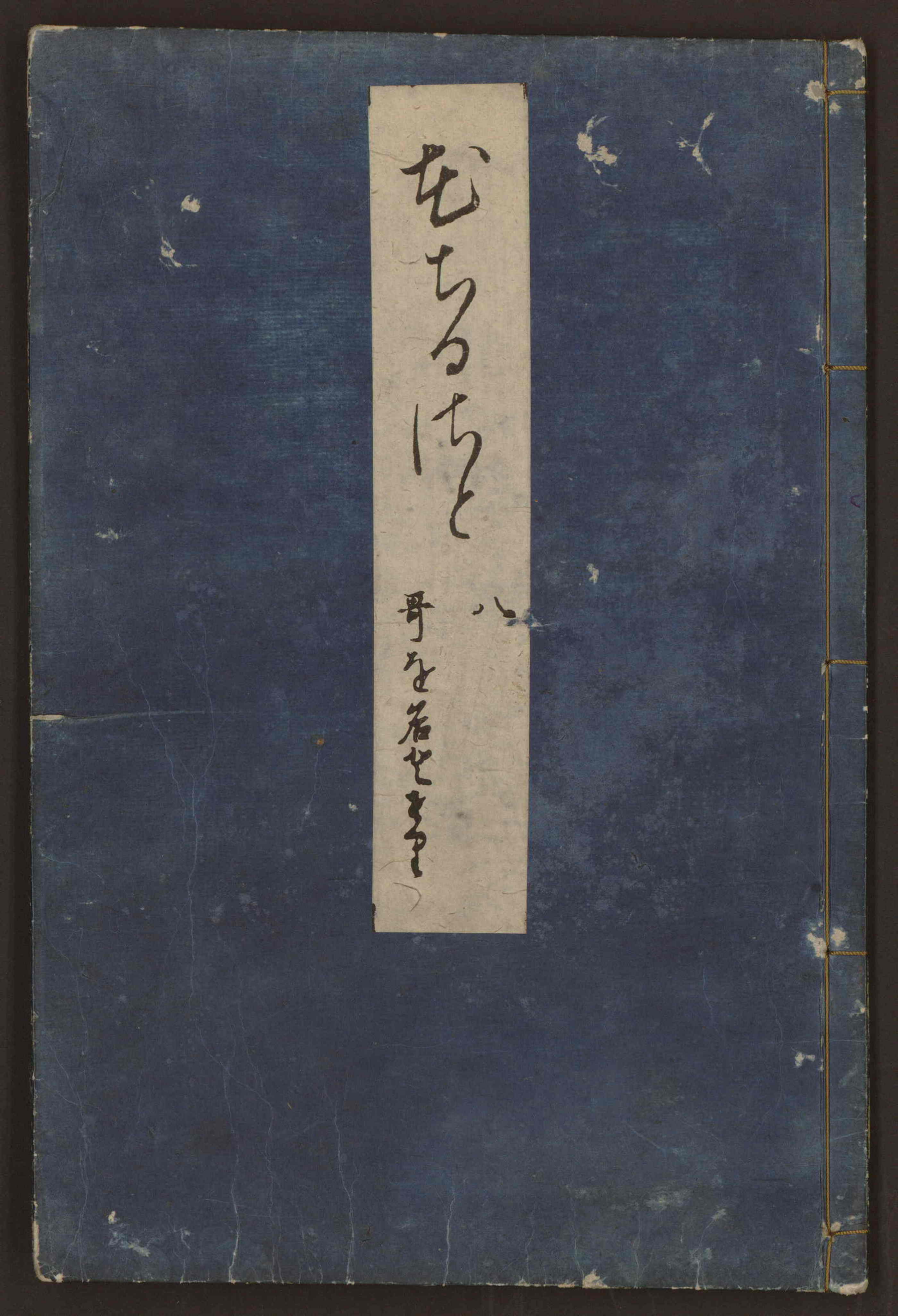


花ちるほと

八

哥を名せまつ

Murasaki Shikibu
[Kyoto, 1650]
[v.11]

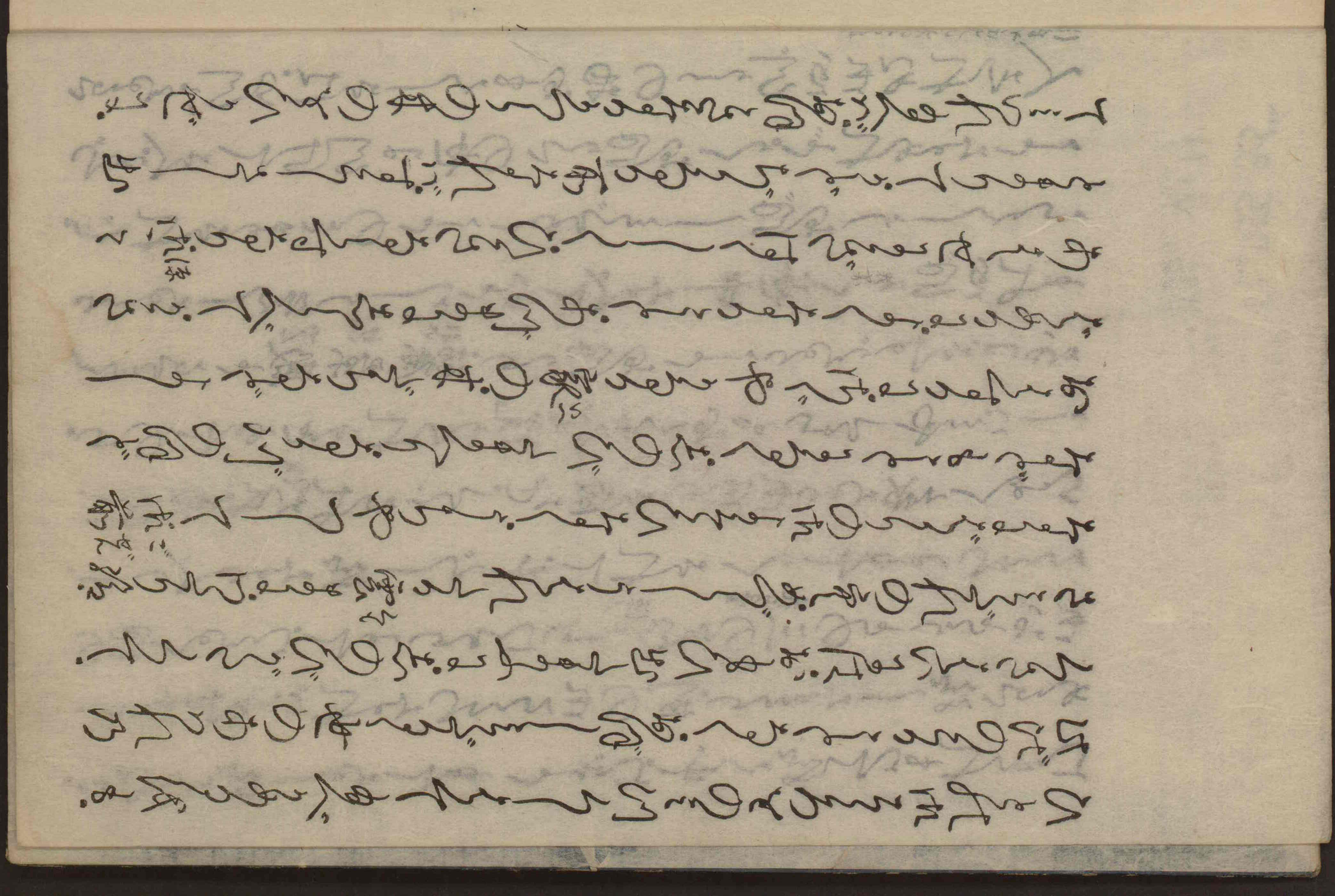
PL788
.4
.G4
1654
vol.11
copy 1
Asian
Japan
Cage

THE LIBRARY OF CONGRESS

200455/302

源氏廿四才の者のうちに

人しれぬ此心びからの抱おもはしさは、いかとるさ
ことなすめれどうくおほかたの世ほ以けてさへぎづ
らはしうおぼしこぶることのこまかされば、
もれ心ばそく世中なすべていとりしう覚しなるる
なまさすがるることおほかり。麗景殿（れいけいでん）ときこえ
しいこやこちもおもはせず。院かくれさをなてのち。
いまく氣なる此何りさ夜を。こぶこれ（源）だ物殿の此
こころまもてかくされて。ぞぐし給なるべし。
此おとうとの三（花ちる里）の君。（源ノ）うちけたりまて。けるく此の
めき給しなすぐり。例の此こころなれば。さすがり
けれもけて給ちぞ。けざとまてなし給ちぬま。

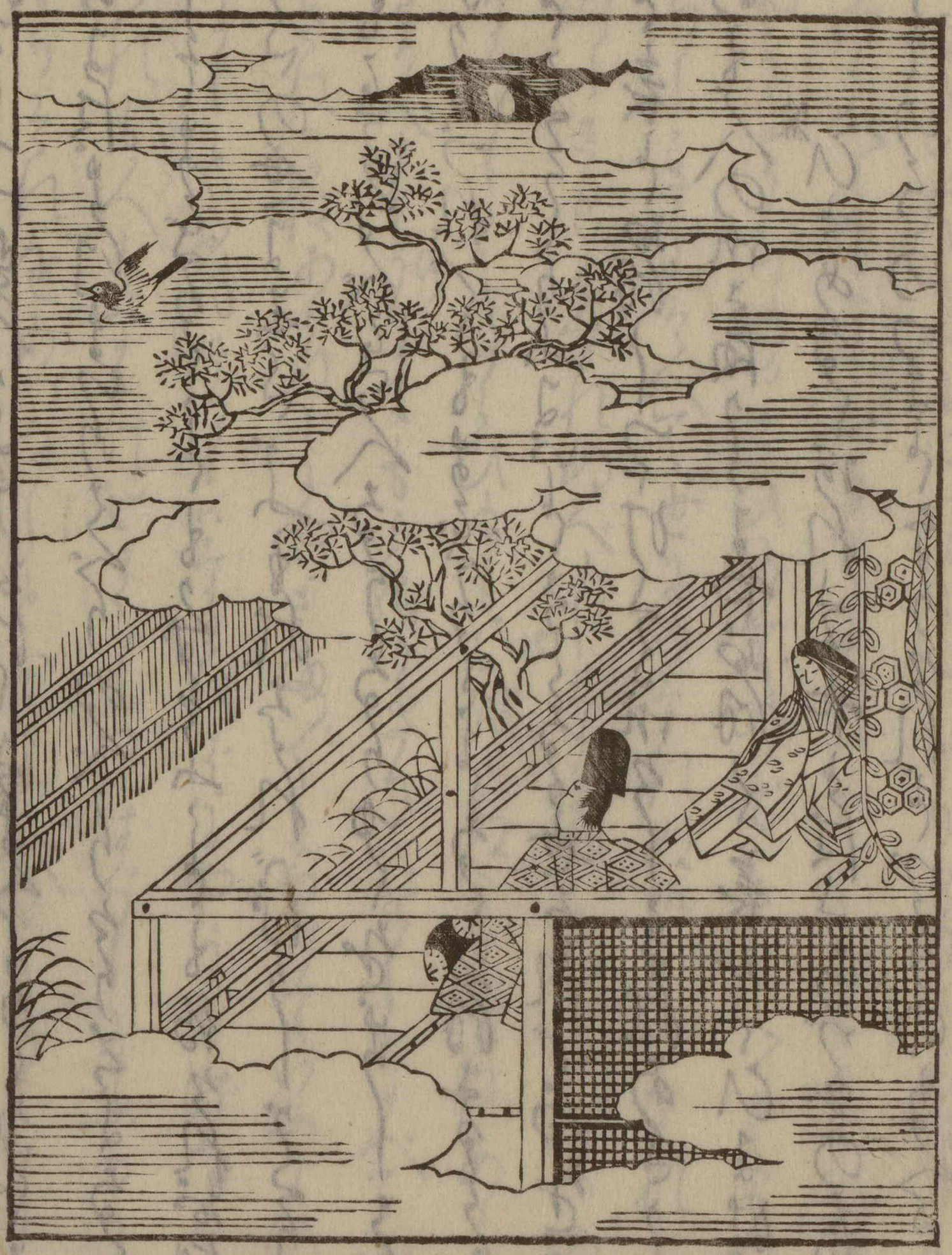


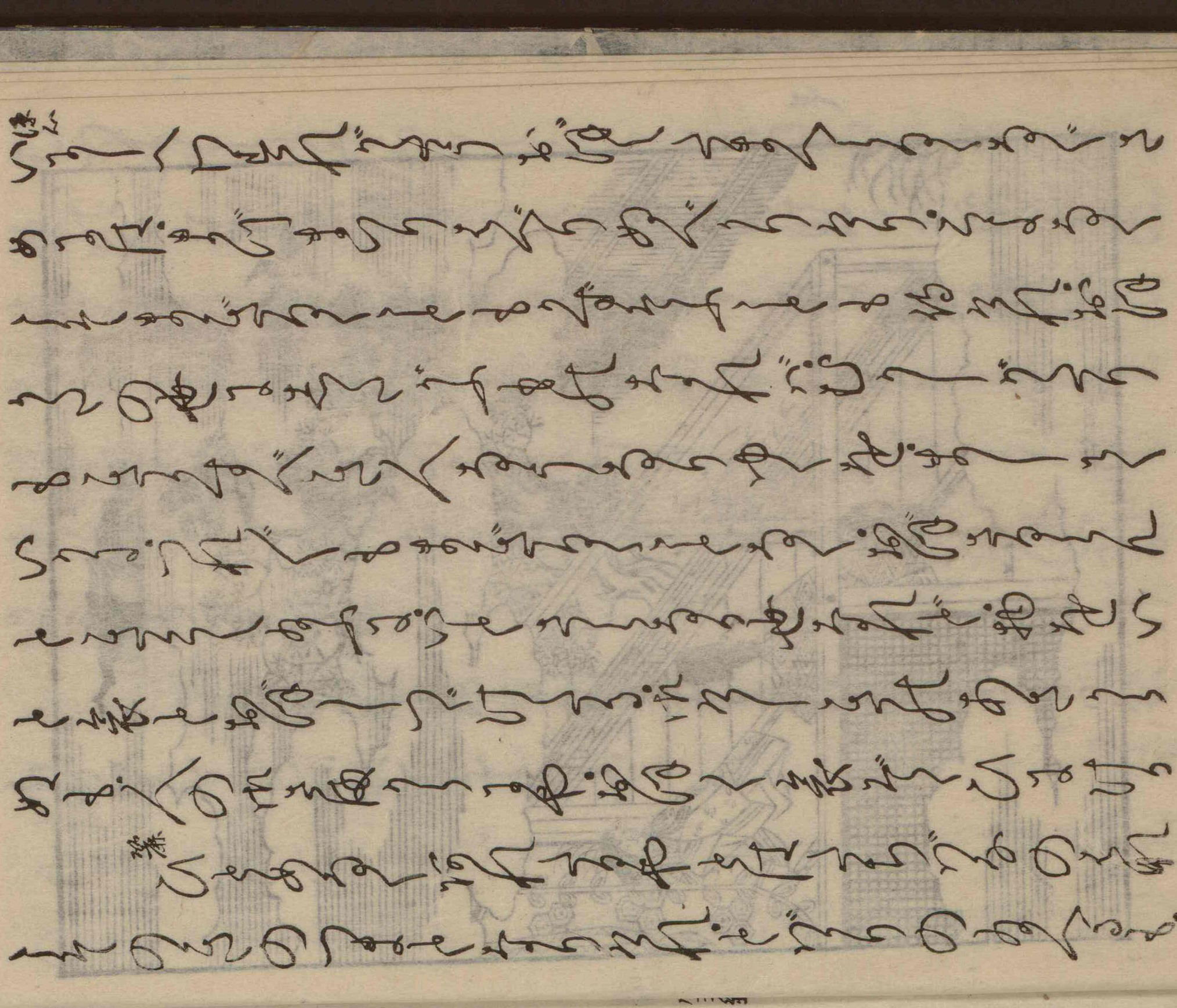
まつりのころおぼしいでられてそこはとなく
けもひおかしき後ぞひとめこ給しやどり也と。
おもひいでなふまこぐるすぶほどへまけるをおぼ
めしくやとひこましそれどすきがてまやすら
ひ給おりしもほとゝぎすなきてつゝる。もま
ほしきこゝしがほなれば此車をしかへさせなて例
のこれこゝしをいれなふ
（源）どちかへりえぞ思ぐれぬ時鳥（かくこぎは）ほのゝゝら
ひし宿のうきねまたん飯（でん）とおぼしき座乃。
雨（ま）のつまま人ぐゐゝりさきぐもまくしか
こゝ思なすりそれだ。（惟光）そはじくりそしきとりて。

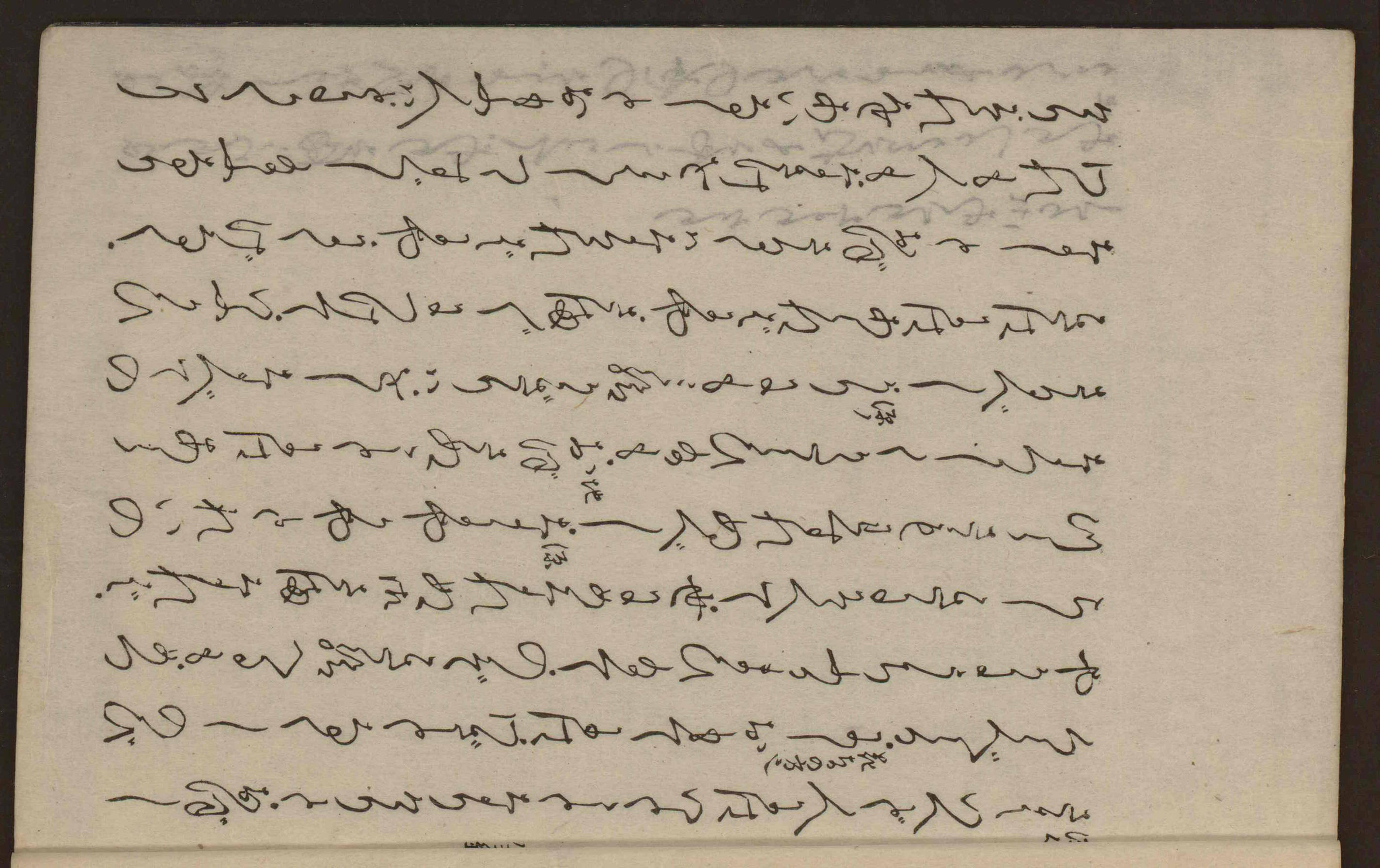
ゆせうそこ四方もけりやかるかしきどもあまる
して。おぼめくなるべし
（祖とも有し女）
はとくぎ涼うこふと思ハそれなるがらあるお
ぼつるかさみぞれの雲とさしまよどろとこれぞ。
（惟光）
よりく入へしうきれもとていづる代（女）人志れぬ心
まはまうも何されまもしかり。（地）さもつくむべき
ことぞうしとてりまもあれバさすがるりかや（源ん）
うのきはまいくしの五筥（せち）（大弐ノ女ミ）とてらうしげな
ましまやとまぐおぼしいけいかるまつけ
てもれこころのいと面なくどし月をへてをを
なしげなりぢ（地）代うやうてりこしあるを

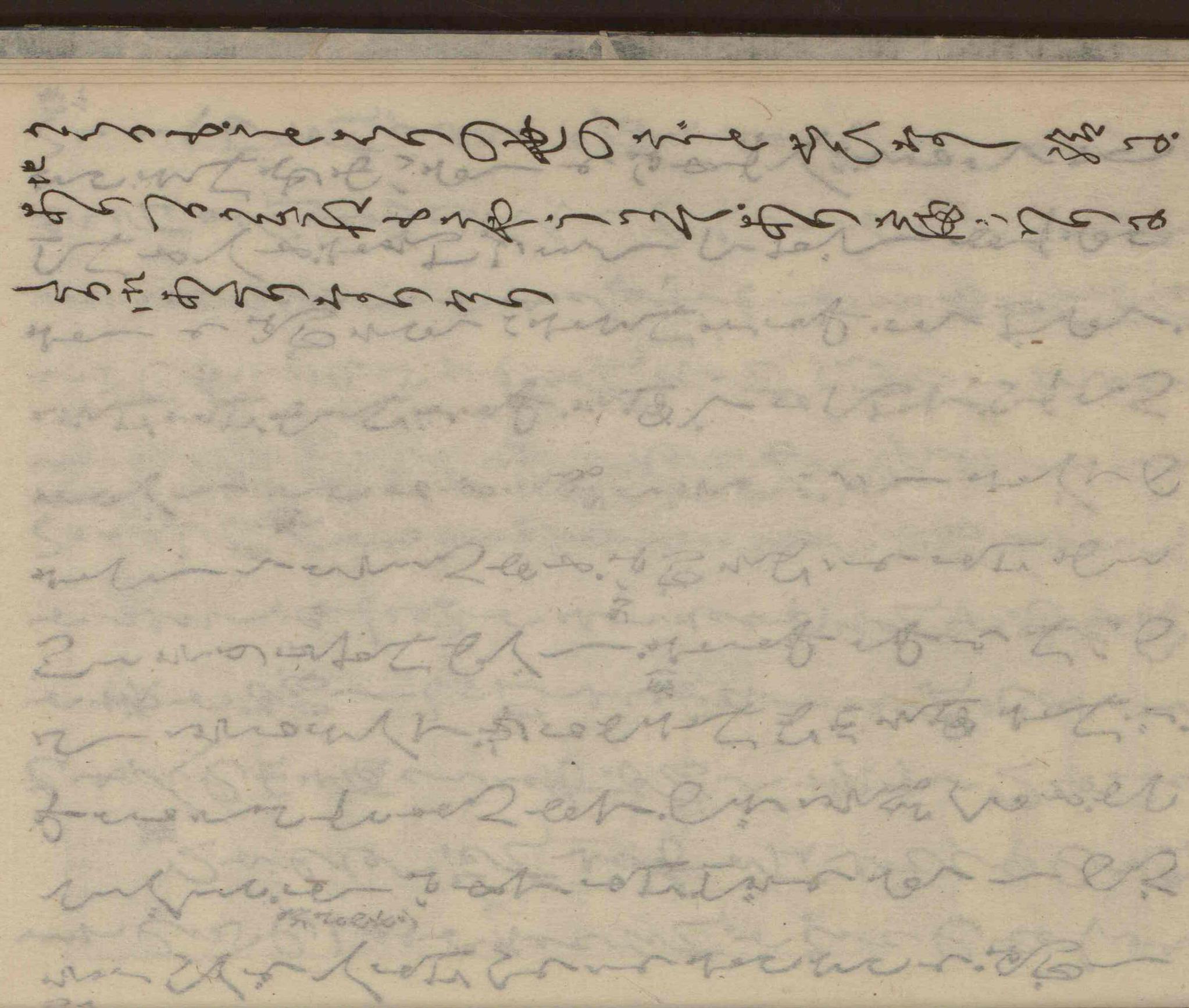
のなさけもさぞしら海もぬかしもなりくあまるの人のまれなまひぐさなりさてかれはいのところも（花ちる）おぼし（涼ん）やつまりるもしるく人めなくしげかりまておもすかみ猪とら猪もいと哀なり。まげ女（碾茶）れのれかるまてむかしのれまれがたりなどこそしらまふる。（地）夷ゆ字つりかり。女日志月さしいげるほどるいとゞ来ざるさかげども。こゞろうしつゝりてちうき樓（こちゞな）のかほりなりかしくはほひて女（碾）れのれけもひまびまされど。あくまでよういあり。おてまらうしけなり。寸（涼ん）ぐれてもれやかるれ見しこそなりしかど

むつましうあるべしさうなまは院ノ笑しさうし
もれとなど思出さるしまふまつけてもむかしの
ことうきつゝねあばされてうちなき給ほとく
ぞ寸ありけるうきねのまやおなすじこ思ひ
うちなく思ひさまけるよとあばさるゝ程も
えんなりうしいかまたりてうなまど思のびやう
まうちずじ給
源 うち笑のうばなりけうしこほとくぞ寸りか
ちる里とこげねてぞとふ









69038
6AP78